



◇ 今回は、早川征秀さん（岐阜大学大学院）の研究活動レポートです！

こんにちは。関高校OBの早川征秀です。現在は岐阜大学大学院工学研究科生命工学専攻博士前期課程2年に所属しています。

今回は、関高生の皆様へ研究活動の楽しさを中心に、大学生活に関する話題をお伝えしたいと思います。私が専攻する分野の性質上、理系に話が偏ってしまいましたが、研究活動に関しては、専門的な用語を最小限に抑え、分かりやすく表現しましたので、純粋に研究活動を楽しんでいる大学院生の話として文系の方も肩の力を抜いて読んで頂けたら幸いです。

研究活動への没頭

私の専攻分野は、有機化学のカテゴリーに属する“超分子 (Supramolecular)” と呼ばれる分野です。要するに、見た目が “カッコいい” 新規な分子の合成と機能化を目指して研究活動に励んでいます。私の研究成果に関する論文が現在執筆途中のため、私が合成した分子の構造をお見せできないことが残念ですが、私の合成した分子も相当カッコいい形をしています。

研究室では主に合成と構造解析に関する評価を行っています。合成における実験操作の際は、白衣・手袋・防護メガネなどを装備し、万全の状態を実験を遂行します(写真1)。この辺りはおおよそ化学系に対する一般のイメージ通りかと思います。フィクションの世界において化学系の研究者は危険な実験の末に爆発事故を起こしがちですが、私も何度か危険な試薬を扱ってきました。例えば、金属に触れると爆発するもの、摩擦で爆発するもの、誤って系内に水が入ると火柱が上がるもの、致死性のガスが発生するもの、まだまだありますが多くの修羅場をくぐり抜けてきました。正直このような危ない橋は渡りたくないのですが、自分のゴールとなる化合物を合成する上で避けられないため、止むを得ず細心の注意を払い、全身全霊をかけて反応に挑みます(勿論、安全な別ルート開拓のため該当論文を全力で探します)。この恐怖に打ち勝ち、目的の反応が成功した時の達成感は筆舌に尽くし難いものがあります。この楽しさの中毒になり、昼夜問わず実験を行ってきました。気付けば深夜だったことも多々ありました。

また、ある程度研究データが集まると学会で研究成果を発表する事ができます。私は過去に3度の学会に参加し、その中で大学院1年生の秋に参加した学会において研究成果が評価され、表彰を受けました。好きな事とことん突き詰めて他者から評価される程楽しいことはないです。学会では同じく研究活動に励む他大学の学生と交流することができ、非常に有意義な時間を楽しむことができます。皆さんも研究室に配属され

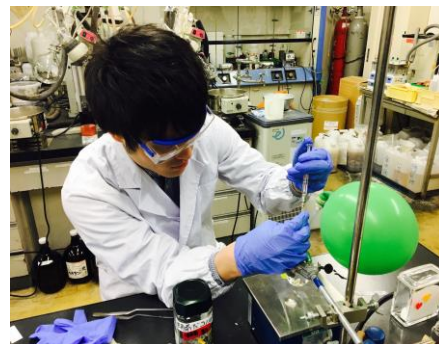


写真1 実験操作の様子



写真2 授賞式の様子

たら是非積極的に参加される事をお勧めします。

学生生活を通じて

ここまで研究生活しか触れてきませんでしたが、研究室に配属される前の3年間も非常に充実した時間でした。

サークル活動やアルバイトももちろん楽しみましたが、バリスタとしてラテアートの修練、ショパンのエチュード作品への挑戦、キーボードとして学祭での演奏など、やや個人的な趣味に没頭しました。それぞれの環境で国、職業様々な垣根を超え、沢山の意見、考え方に触れ、それぞれから学びを得ることができました。

ぜひ、高校生の皆さんも、大学生になったら生まれ育った環境が全く異なる人達と仲良くなってみてください。そのような機会は大学生の日常にあふれています。そして様々な考え、意見にもまれてください。きっと大きな財産になると思います。



写真3 学祭の様子

最後に

大学生活が楽しい旨の記事を散々書かせて頂いたため、高校生の皆さんにとって内容が薄くないか些か心配ではありますが、最後に関高生の皆様へ、高校生である今だからこそ贈りたいメッセージがあります。**今の勉学に励む生活に理由を付けてください。**現在の座学のための生活に楽しさを感じる人は少ないと思います。しかし、皆さんが進むのは大学受験のその先です。いずれにせよ超えなければならない壁です。いい大学に入ってモテたい、県外で一人暮らしがしたい、とにかく遊びたい、どんな理由でも結構です。そんな欲望をありのまま大学受験にぶつけてください。そして大学受験という壁を打ち破り、憧れの大学生活を勝ち取ってください。

他の先輩方の寄稿からも分かると思いますが、大学生活には想像を絶する楽しさがあります。6年目の私が言うので間違いありません。私の寄稿が少しでも関高生の皆様のお役に立てば光栄です。最後になりますが、皆様の御活躍を心よりお祈り申し上げます。